

2025 年 10 月 21 号「秋のお便り」

野尻湖グリーンタウン通信

Lake Nojiri Green Town News (members association)

発行

長野県上水内郡信濃町野尻 454-66

野尻湖グリーンタウン管理組合

目次

*管理組合理事長挨拶 P1

*各委員会からの報告 P2

*原野商法に巻き込まれないためには P3

*投稿欄「ほほじろの声」 P5

🎨 美術コーナー：写真、水彩画

📖 文芸コーナー：俳句、川柳、短歌、詩、エッセイ

*夏の企画

「重機搭乗体験会」 P16

「野尻湖ナウマンゾウ博物館講演会」 P17

*[頑張る職員]ほたるヶ池整備 P18

*防災マップ・理事募集・お知らせ・おすすめ P19

*投稿欄作品募集中・編集後記 P20

野尻湖グリーンタウン管理組合理事長挨拶

三島憲一

今年度の総会を無事に終えることができました。少数とはいえ、ズームによる受動的参加者もいらっしゃいました。

詳細は議事録をご覧いただきたいと思います。管理費滞納者への事務所からの丁寧かつ頻繁なお願いが功を奏したのか、過去分の収入がおかげさまで少しですが、増加しました。

本年は全国的に猛暑、いや酷暑となり、今まで聞いたことのない高温の数値が天気予報のアナウンサーの口から飛び出していますが、幸い野尻湖グリーンタウン周辺は滅多に30度になりません。夜などは窓を開けたままにしておくとしんどいくらいのこともあるほどです。時々全国の天気と比べているのですが、日本最北端の稚内よりも日中・夜間ともにグリーンタウンの方が気温が低いこともあるほどです。札幌市民が結構別荘を持っているという釧路ともいい勝負です。会員の皆さまも、都会の暑さから時たま逃れて充実したグリーンタウン生活を楽しまれたことと思います。また、お仕事その他で遠い北信までいらっしゃれなかった方々には、必ずやまた酷暑になる来夏には是非お立ち寄りください。

こうした温暖化の状況も手伝ってか、別荘地や家屋の取引も多少活発になっているようで、新規入会者も増加の傾向にあります。

理事会としてもグリーンタウンで皆さまが安全で快適な生活を送れるように、また別荘地全体がより活性化するように努めてまいりますので、今後ともご支援をよろしくお願いいたします。

[各委員会からの報告]

◎水道委員会

班目健樹

水は限りある資源です。水の最大の無駄使いは漏水です。今回は家庭で簡単に出来る漏水発見法についてお話しいたします。皆様の別荘地のどこかに水道メーター（量水器）があります。自分の別荘の水道メーターの位置が分からない人は担当スタッフに聞いてください。年二回検針する為に水道メーターを点検していますので、スタッフは確実に位置を確認しております。



←水道メーター（量水器）です



蓋を開けると丸いのがメーターです→

さて、ご自身の別荘宅内で漏水があるかどうか確認する方法は簡単です。宅内の水道栓を全て閉めてください。台所、洗面台、浴室、トイレ、外栓もあれば全てを締めて下さい。



検針メーター

どれだけ水道水を使ったかわかる。

パイロット

水漏れしているかどうか分かる。

水量の確認指針

水の流れが正常か確認できる。

漏水を発見するにはパイロットが重要です。銀色に光りオレンジ色のプロペラが付いていますが、これが全く動いていなかったら漏水はしていません。すべての水道栓を締めてもこのパイロットが動いていたら宅内のどこかで漏水しています。その場合はスタッフに声をかけてください。ひょっとしたら、あなたのお宅も……。よろしくお願いいたします。

◎道路環境整備委員会

大貫敦子

この夏にグリーンタウンを訪れた方は、すでにお気づきのことと思いますが、懸案だった道路の凍み上がりによる破損箇所の修復がほぼ終了し、だいぶ車の走行が快適になりました。今回の補修工事については、近隣地域全体の道路がグリーンタウン内と同様に広範囲で補修が必要な状態だったようで、どの業者も先々までの工事予定がすでに入っている状態で、施工会社が見つかるまでかなり時間がかかりました。スタッフのみなさんは、業者を見つけるのに大変苦労なさったと聞いております。お疲れさまでした。危険木の伐採の方は、順調に進んでおります。

◎別荘ライフ向上委員会

阿部章子

美山郷の管理棟内の本棚を整理しました。神山ロッジ3Fフロアに幼児用コーナーを作りました。寄贈いただいた知育玩具など陳列してあります。また、すべり台と小さなうちも設置しました。いずれも危険のないよう保護者様の監督のもとご利用いただきますようお願いいたします。



原野商法に巻き込まれないためには？

不審な勧誘を受けたら消費生活センターに相談を。

(参考：[国民生活センター「より深刻に！「原野商法の二次被害」トラブルー原野や山林などの買い取り話には耳を貸さない！契約しない！」](#))

●最近では、「売却勧誘-下取り型」という巧妙で複雑な手口が非常に目立っています。この手口では、「あなたの持っている土地を高値で買い取る」などといった電話勧誘がまず行われます（売却勧誘）。そしてその後、業者は契約内容の詳細を説明せずに「節税対策」などといった名目でお金を請求してきます。しかし、この説明は適切ではなく、実際は原野等の売却と同時に高い金額の新たな原野等の土地購入をセットで契約させています（下取り）。結果として消費者は契約内容を適切に認識できないままに売却する土地と購入する土地の差額分を支払う契約を結ばされてしまう、というものです。

●土地を買い取るにあたり調査や整地が必要なので、その費用を支払ってもらいたい」と勧誘して、お金を支払わせようとする手口「売却勧誘-サービス提供型」も、依然として見られます。

●根拠がはっきりしないにもかかわらず「あなたの持っている土地をずっと管理してきたので、その費用を支払ってもらいたい」と請求を受ける「管理費請求型」もあります。

●そのほかの特徴として、かつて原野商法に巻き込まれ、価値の低い土地を長年保有し続けてきた高齢者が、「子に相続の負担をかけたくない」「自分が元気なうちに清算したい」と思っている気持ちにつけこんで、業者は勧誘を行っているものと考えられます。

●親などから相続した原野や山林について、子供世代が狙われたケースもあります。

●「原野商法の二次被害」トラブルでは、契約後は業者と連絡がつかなくなることがほとんどであり、一度お金を支払ってしまうと、そのお金を取り戻すことは非常に困難です。

●以前購入した原野等の買い取り話を不用意に聞いてしまうと、さらなるトラブルに遭ってしまう恐れがありますので、「土地を買い取る」といった勧誘には、耳を貸さずきっぱりと断りましょう。

●そもそも、購入した「原野」はこれまで値上がりもせず、開発することもできなかった土地です。「値上がりする」「買いたい人がいる」といったうまい話ほど、まずは疑ってかかりましょう。業者の説明に少しでも不審な点があったり、不安を感じることがあったりした場合は、決してすぐにお金を支払わず、お近くの消費生活センターなどに相談しましょう。

●昔買った原野を処分したいと思っても、その場で話を聞いたり判断したりせず、家族など周囲の人に相談することが大事です。

●70 歳代、80 歳代と特に高齢者が被害に遭いやすくなっていますので、ご本人が用心するだけでなく、ご家族や地域の方々が高齢者の方を見守ることが重要です。
口数が減る、買い物あまりしなくなる、借金を申し込んでくるなど、高齢者の生活に変化がないか気を配りましょう。不審な勧誘を受けている、お金を支払ってしまったなど、困っているときは、消費生活センターなどへ相談するよう勧めましょう。

原野商法で買った土地について
「買い取る」などの勧誘を受けたら？

- ☒ まず疑ってかかる。きっぱりと断る。
- ☒ 即決しないで、家族などに相談する。
- ☒ 業者が宅地建物取引業の免許を持っていても、安易に信用しない。
- ☒ 根拠がはっきりしない請求にはお金を支払わない。
- ☒ 周りの人も、高齢者トラブルにあっていないか気を配る。
- ☒ おかしいと感じたり、トラブルに遭ったりしたら、消費生活センター等にご相談を。



資料：国民生活センター公表資料をより政府広報室作成＜相談窓口＞



地方公共団体が設置している身近な消費生活センターや消費生活相談窓口をご案内します。
年末始を除き、原則毎日ご利用できます。

＊相談は無料です。なお、相談窓口につながった時点から通信料は発生します。

（取材協力：消費者庁、(独) 国民生活センター 文責：内閣府政府広報室）

関連リンク

- [消費者庁「消費者ホットライン」](#)

🐦 投稿欄「ほほじろの声」 🐦

🖼️ 美術コーナー

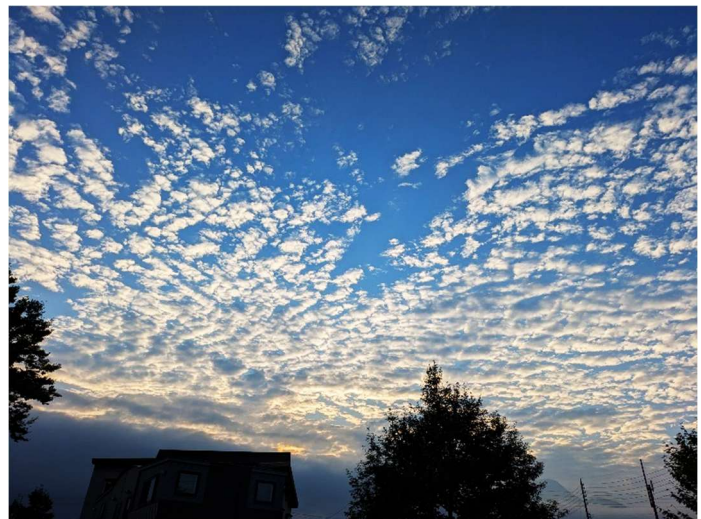
📷 写真

【「^ゆ行き^あ合いの空」 夏と秋とのコラボレーション】

河内みつね



【入道雲・湖面の夕映え】



【夕日に輝くうろこ雲】

【朝焼けの野尻湖】

狐久保 NG T member



🎨 絵画

水彩画【ロングアイランドのビーチ】

abemacot



🖋️ 文芸コーナー

📌 俳句・川柳

夕焼けを鳴き鳴き^{よぎ}過るカラス二羽
健診でついた病名「お年です」
まだ熱き周遊道を夕散歩

夕風
後期高齢者
科野みすず

🏠 短歌

極寒の箱根路に向け灼熱の湖畔を走るマラソン部員
人生が一日減ったよカナカナカナ何もしないでカナカナカナカナ

駅伝ファン
ヒグラシ

📖 詩 🌳 「オニヤンマ」

年長きく組

🚗🚗 くん

あ！ オニヤンマ
ピューッて 行ったよ
かっこいいー！
あ、またきたよ
わっ、見て！
目！ 目！
みどりいろ！

🔑 エッセイ

【写楽について、というかべらぼうに豪華な「黒雲母摺」について書くつもりが、写楽の話も蔦重の話も結構したうえ、そもそも話があっちこっちにいったしまった】 永田 南



序

生まれて初めて、第1話から大河ドラマを観ることに成功している。これまでも何回か、今年は観るぞと意気込んでいたのに、年明け早々に始まるせいか、あれもうはじまっていたのと第1話を逃してまるごと諦めるか、観たり観なかったりを散漫に繰り返しているうちに年も暮れる、でもまあそれなりに満足かなというやり過ごし方をしてきたが、今年はこれまでとは意気込みからしてべらぼうにちがった。

一、北斎の凄みの波に吞まれる（小学生時代）

何にそんなに惹かれるのか自分でももうよくわからないが、小学生の頃から浮世絵が好きだった。記憶を手繰ると最初はおそらく小学校の低学年で読んだ葛飾北斎の伝記漫画で、名前を何回も変えたとか90回以上引越したとか、ぶっ飛んだエピソードに魅せられたからだろうと思う。なかでも、これは僕の記憶が長らく間違っていたのだが、寺の境内で100畳の畳に竹箒で巨大な達磨を描いた直後に米粒に雀を2羽描いてみせた、という話にはとてもしびれたものである。

実際には雀を描いたのは江戸、大だるまを描いたのは名古屋で、場所も時期もちがううえ、大だるまは120畳の大きさの「和紙」に藁を束ねた巨大な筆で描いたということなので、記憶のなかの、子どもながら心躍った畳に竹箒、という弁慶さながらの迫力溢れる作画風景とくらべるとちょっと物足りないが、ともかく改変された記憶とともに、小学生時代の僕はすっかり魅了された。ほかにも神奈川沖浪裏の迫力はもちろん、富嶽三十六景というシリーズなもの粹だと思ったし、80歳を過ぎてから魔除けだと毎朝獅子を描きだして（これも龍だと思っていた）、御年90歳の今際の際にあと10年生きたらもっと上手くなってついに本物の絵師になってみせるののと言ってみたり、最後のほうの画号が画狂老人巳だったり、何から何までぶっ飛んでいて、子どもながらに脳を揺さぶられ心奪われたわけである。

二、写楽ミステリーの波に吞まれる（中学生時代）

中学2年生になると、今度は謎の絵師東洲斎写楽ブームみたいなものがあって、ちょうどアガサ・クリスティを読み漁っていたこともあってか、突然現れたかと思えば10ヶ月で忽然と姿を消した正体不明の謎の絵師、正体は北斎か、十返舎一九か山東京伝か、というミステリーに今度はすっかり魅了された。そしてその勢いのまま3年生になった僕は、修学旅行で訪れた京都で浮世絵Tシャツを買い、湯呑みに絵を描いて焼き上がったものが後日東京に送られてくる清水焼体験では、大谷鬼次の奴江戸兵衛を描いてその横に「写楽斎」と書いてみるという痛々しい、そして写楽で浮かれるなら京都じゃなくて出発点の江戸だろという大きな過ちには気づかない、愚かな恥ずかしい中学生であった。

高校時代は毎日ギターを弾いてばかりいたが、それでも新聞の日曜版に入っている実物大くらいのわりと精細に印刷された浮世絵を集めてみたり、テレビや雑誌で特集があれば観たり買って読んでみたりと、浮世絵への情熱はなぜか冷めなかった。

三、大学時代、卒論もそのあとも写楽の波、引き潮を知らず

そして、大学で美学美術史学という専攻に入った僕は、これまでの浮世絵愛好ライフにけりをつけようと意気込んで日本美術の絵画のゼミに入った。しかし、入ってからわかったのは、ゼミの教授は琳派など障壁画の研究者で浮世絵はそもそも芸術として認めていないということ、さらには授業を履修することを楽しみにしていた浮世絵研究者の教授が、出光美術館かどこかに行っていないなくなってしまっていたということだった。何のためにここにと膝から崩れ落ちるような気分にもなったが何とか踏みとどまり、浮世絵の授業がなくなった美学美術史学専攻でも細ぼそと北斎や写楽で発表し続けていると、やがて後輩にも浮世絵で発表する学生がちらほら現れ（僕の影響というわけではない）、そうした学生の趣向に気づいた教授が、僕が『写楽について』という卒論を書きあげ提出したあとの、卒業前の最後の授業で「最近、浮世絵をやる学生も増えてきたので、来年度からまたN先生に戻ってきてもらうことにしました」と言うのを聞いたときには、椅子に座っていたおかげで今回も物理的に崩れ落ちることはなかったものの、僕がいた間だけいなかったとは、と心は今度こそ膝から崩れ落ちた。

その後も、2008年に写楽の新たな肉筆画が見つかったり、葛飾応為の画力や名前の由来を知ってまたぞろ痺れたり、浮世絵熱は何か冷めやらぬままここまで来たところのべらぼうというわけで、NHK プラスの綱渡り込みで第1話から何とか欠かさず観ているのである。

もちろんドラマ自体も面白く、瀬川花魁にしてもうつせみと新さんにしてもそして第一部の最後を締めくくった源内先生の最期にしても、ハッピーエンドではないとしても何かしら、それが束の間であったとしても救いのある場面を描いてくれるので、観る側にああ、せめてこの時間があってよかったと思わせてくれる名脚本だと思っている。

——と、暇を見つけてちらちら書いているうちに話はどんどん進み、この間は唐丸が帰ってきて歌麿になったし、鱗の旦那とのラストシーンもまたもやとてもよかった。

それはそれとして時間を卒業論文に戻すと、中学生時代から数年が経ったその頃には、写楽の正体は阿波国蜂須賀藩お抱えの能役者斎藤十郎兵衛でまあ間違いないんじゃないかという話になってきており、巷を騒がせた正体は誰だのミステリーにもほぼけりがついていた。ただ、個人的には中学生時代の写楽ミステリーで見た「鼻の描き方に他の絵師とは異なる特徴がある、変名で誰かが描いているとしても、小鼻のような部分はその正体の絵師と同じになるのではないか、でもそういう絵師は見当たらないのです」というような話になるほどそれは説得力ありそうだと思っていたので、（作家など他に作品のない文人説までは否定できないとはいえ）正体探しにはそれほど興味がなかった。それに、正体誰だの鉾山はもう掘り尽くされていて素人学生が今更手を出すもんじゃないとも思っていた。というわけで、自分が写楽にけりをつけるにはどうしたらいいかと考えながらあれこれ資料を読んだ結果、第一期から四期までに分類される各時期、特に前期（一期二期）と後期（三期四期）作品の比較をしてみることにしたのである。



←鼻の頭から小鼻というか鼻の穴にいく前に一度線が切れるのが写楽の特徴

三代目佐野川市松の祇園町の白人おなよと市川富右衛門の蟹坂藤馬のふたりの鼻もこんな感じで、描写としては記号的というより写実的といえるかも↓



こちらは『Sharaku』を書いたユリウス・クルトが正体だと目をつけた歌舞伎堂艶鏡↓



↑ちなみにこちら春章の鼻



よく知られているように、写楽の第一期は大判大首絵 28 図 28 枚を一斉に売り出すというとんでもないデビューのしかたをやったのけた（作品数＝図で第一期はすべて一枚絵なので図でも枚・点でも同じになる）。これは令和に使うべき喩えではないのは承知の上だが、そしてこの喩えがそもそも事実ではないので問題だらけなのもあらかじめお詫びするが、個人的には、いってみれば筋肉少女帯が豪華ブックレット付きデジパック仕様 2 枚組アルバムでメジャーデビューするみたいなことだと思っている。21 世紀も四半世紀が過ぎようとしている昨今、いまやマーケティングも情報も充実しまくって、歌も演奏もやたらと上手ければ「いい曲」を作る方法論もポイントをしっかり押さえた見事な若者たちが多いなかから、筋肉少女帯みたいな異形のバンドが巷を席卷することはもうないんじゃないかと思うと、Google マップで迷子になれなくなったのと同じで奇跡も偶然もない実に安全で堅実な時代になってしまったようなと、寂しく思う気持ちもあるが、そっちの話に突き進むと戻ってこれなそうなのでこのへんで。（続く）

🔑 エッセイ 野尻湖 50 年 (5) 【今後の課題 (2)】 松風台南 内藤壽夫

父が残した神山の別荘には 1967 年から今年で 58 年間、海外にいた期間と、父が亡くなった前後の数年間除いて毎年数回利用してきた。滞在中下手なテニス、練習もしないひどい腕前のゴルフに誘って下さった NGT の仲間の皆様に改めて感謝したい。野尻を訪れる動機にもなった。

誰も利用しなかった父の没前後の数年間で別荘は相当に荒れた。この家の修復に平凡なサラリーマンとしては費用面もあって水回りや高所作業除いて多くの作業を自ら行ってきた。ベランダや階段の塗装、床張り、壁紙張替えなどである。実は DIY には工夫重ねる創造的な楽しみもある。建材や塗料に関する知識、工務店の見積もり妥当性などもある程度知ることができた。

・高齢となりこれら作業も容易ではなくなったので子供にこの家を譲ることになった。従って小生自身は組合員資格を失うことになった。しかし別荘の利用は可能なので今後も野尻の自然に接し、時折皆様方にお目にかかれることを楽しみにしている。

・高齢化すると、車での往復を家族から反対され、2 台目の車を NGT に置く余裕もないので足が遠きがちとなっている。法人所有の車両による送迎などの有料サービスもあるが職員の負担を想うと利用にためらいもある。個人所有の車によるカーシェアは日本の文化では容易ではない。個人の御厚意に甘えることも再三は難しい。法人かクラブ辺りで中古軽自動車や老人向け電動アシスト 3 輪車などを購入してレンタルベースで足を確保することも考えられるが、購入費の元を取れない懸念もある。

・既に何度かふれたが、温暖化は加速化している。盛夏 35 度以上の首都圏は人が住み難い環境になりつつある。専門誌ではないので図を示すことは控えるが、世界の陸上の気温や海水温の急上昇は尋常ではない。様々な技術や途方もない資金を投入しても温暖化の進行を食い止めることは容易ではない。信濃町の気温上昇はほぼ全国平均並みであるが、東京など大都市はヒートアイランド現象も加わってその倍位になっている。

・猛暑の中の夜間停電などは生命の危険をもたらす。NGT 辺りでは朝晩は首都圏対比 5 ～7 度低く、林間は更に低くなる。温暖化対応として別荘を活用した二拠点生活や可能な場合は定住も今後より推進してよいのではないだろうか。澄んだ空気、緑に囲まれて人間らしい生活を送ることが出来よう。最近では家庭電源につなぐだけの WiFi も開発され、リモートワークはよりしやすくなった。神山南の辺りでは問題なく利用できている。WiFi の通信事情が悪いときはロッジや美山管理棟の光回線の利用が考えられる。

・温暖化は食料事情にも大きなリスクをもたらす。高温による農作物への影響、漁業への影響は大変懸念され、様々な異常が報じられているがこれが全国規模に拡大したら大変である。あたり前のことであるが水、食料、エネルギーの確保は生命維持の原点である。食料自給率は、東京はほぼゼロ、長野県は 50 数パーセントで、長野にいた方がはるかに食料調達容易である。一步進んでドイツ語圏に見られるクライネガルテン的な家庭菜園も、景観に十分配慮が不可欠であるが別荘の傍らで取り組んでよいのではないだろうか。

・小生が標高 950～850m の土地で取り組んできた実験では、10 坪程度で玉ねぎ、ジャガイモはじめ野菜は半年分以上まかなえている。トマトなどはペースト化して一年中使用している。実はこれらの寒冷地でサツマイモも栽培可能になりつつある。昨年は驚くほど良い芋がわずか数坪で 20kg 採れた。農作物育てることは奥が深く創造的である。法人が所有する遊休地活用も考えられる。また菜園の不在時の管理を有料サービス化することも考えられる。野菜作りは奥が深く自然に対する理解が非常に高まる。自国優先の世界的な風潮の中で食料事情が悪化すれば他国からの融通は期待できないのでささやかながら食料自給の準備にもなる。

さて、組合員資格を失ったものとしては意見がましいことは差し控えるべきかと思うが、今後の課題をいくつか挙げてみたい。私見に過ぎず文責は小生にある。

・法人は、いずれは第三者の専任社長を置く必要があるのではないか。無論全国的に見て破格と言える現在の組合費や有料サービス売上を原資とする限り現状では第三者社長を招聘する財力はない。実務の実行責任を担う法人の代表理事には多大な負担がかかっている。財務、経理、労働管理と安全などに関しても専門知識や経験を有するか、取得が必要となる。また税理士法人、社労士、司法書士、行政書士、場合によっては弁護士などによる専門的なネットワークを維持する必要がある。地元業者、行政などとの良好なコミュニケーションも欠かせない。誰でもできるとは言い難い任務を現・代表理事をはじめ歴代の代表理事が担って下さってきたことに心から感謝申し上げたい。

・組合、クラブ活動の幹部にも負担が長期化している。その無償のご尽力にも深く感謝したい。しかし負担の解消は容易ではない。組合、法人、クラブ通じて理事などは輪番制を加味した体制はとれないだろうか。完全輪番制は既に述べた専門的知識や管理の継続性が維持できない恐れが大きい。マンションなどでは管理会社が専門的知識を提供している（一方で管理会社に金銭面含めて主導権を握られることも多い）。一部輪番制にすることで、組合、法人、クラブ活動に対する理解が深まること、次期組合長や代表理事、理事の選出が容易になる可能性もあるのではないか。新たな知人や友人を得る機会になり、コミュニケーションが良くなるなどのメリットも考えられる。今後議論して頂けたらと思う。

グリーントウンの方々ならば、飯山の町はいくども訪れておられるに違いない。どこも同じで過疎化が進んでいるが、お寺の多い、古民家もまだまだあちこちに見られる由緒ある北信の小邑だ。綺麗に整備された「仏壇通り」などは、信仰の深かった昔日の面影を宿している。かつては飯山藩の城下町、千曲川の舟運の商都としても栄えた。

飯山と言えば思い出されるのは六十年以上前に読んだ（正確には高校の授業で読まれた）島崎藤村の『破戒』だ。明治学院に学んだ藤村は仙台の東北学院を経て1899年（明治32年）に小諸義塾に英語教師として赴任した。木曾の出身とはいえ、同じ信州でもだいぶ異なる地域で最初に書いたのが、グリーントウンに通う人には必読の、紀行文の白眉『千曲川のスケッチ』だ。その中にも飯山の描写がある。藤村が最初に行ったのは真冬のことだった。

「飯山へ来てみると、全く雪に埋もれた町だ。あるいは雪の中から掘り出された町と言った方が適当かも知れぬ」。千曲川については、「舟橋の上まで行ってみると、下を流れる水勢は矢のように早い。そこから河原を望んだ時は一面の雪の海だった。そうだ、白い海だ」。

藤村の目についたのは寺院の多さと学問の尊重、そしてよく働く女性だ。飯山の古い城主の一人が早くに引退して、仏門に入って仏教を奨励した話や、白隠禅師が訪れたことがあるといった話も記されている。そして奨学の風についてはこう記されている。

「一体この山国では学者を尊重する気風がある。小学校の教師でも、他の地方に比べると、比較的良い報酬を受けている。又、社会上の位置から言っても割合に尊敬を払われている。その点は都会の教育家などの比ではない。新聞記者までも「先生」として立てられる。長野あたりから新聞記者を聘して講演を聞くなぞはここらでは珍しくない」。

女性については「一体、千曲川の沿岸では女がよく働く、したがって気象（ママ）も強い」。こうしたさまざまな見聞を下敷きにして明治39年に出た『破戒』でも「北信の女」の勤勉さ、忍耐強さ、静かに心に秘めた情熱が再三話題になっている。

『破戒』はどなたもご存知のように、飯山の小学校で生徒に格段の人気のあった青年教員の瀬川丑松が、ひた隠しにしていたいわゆる被差別部落の出身が諸般の事情から次第に町に知られるようになり、退職に追い込まれる経緯が描かれている。丑松の出身は小諸の奥の小さな村なので、遠く離れた北信なら、出身を知るものは誰もいないはずだったが、いろいろな陰謀や仕掛けの結果、段々と陰口が広がってきた。最後は周囲の噂に耐えかねて「出身を隠せ」となんどもいい含めてくれた父の戒めを破り、自ら告白し、小学校を退職。同僚の中にも、出身なんて関係ないよ、大丈夫だよ、と言ってくれる人もいたり、飯山を去る丑松に担任の子供たちが――校長が禁止したにもかかわらず――別れかねて千曲川の橋のところまで見送りについてくる最後のシーンなどは幾許かの慰めにもなる。その先は仄めかされているだけだが、飲んだくれの同僚教員の娘で、丑松の下宿先である蓮華寺の養女になっていたお志保さんと上京、やがてアメリカのテキサスを目指すことになる気配だ。当時の自然主義文学の風潮に合わせて、差別がまかり通る社会への藤村の義憤が多くの人々の心を打ち、当時のベストセラーと



「小説破戒 蓮華寺」の碑

なった。「蓮華寺では下宿を兼ねた」という書き出しは、「木曾路はすべて山の中である」という『夜明け前』ほどではないが、それでもかなり有名だ。当時飯山の20を上回る数

の寺院は、明治と共に次第に衰えていく教勢のゆえに下宿を営まざるを得ないところが多いことは、『千曲川のスケッチ』にも出てくる。

現在の真宗寺

この蓮華寺のモデルになったのは真宗寺という名の寺だ。鎌倉時代に遡る古刹とはいえ、写真にあるように、現在はいささか侘しいが、これは昭和27年(1952年)の飯山の大火で、本堂、庫裡、鐘楼などが灰燼に帰したためで、残念至極だ。『破戒』本文には見事な結構ぶりが描かれている。



この小説を読むと明治時代の信州のありようがよくわかる。明治になって導入されたりんご畑はもう上田から小諸地域まで広がっていたようだ。藤村が文壇にデビューした詩集『若菜集』は冒頭の「遂に新しき詩歌の時は来りぬ。そは美しき曙のごとくなりき」で有名だが、そこに収められた初恋の歌の冒頭の「まだあげ初めし前髪の 林檎のもとに見えしとき 前にさしたる花櫛の 花ある君と思ひけり」も、りんごが重要なモチーフだ。『破壊』の中にも丑松の故郷の幼馴染のお妻さんとの再会を描くところに同じような、りんごをモチーフにした文章がある。またすでに当時から『信濃毎日新聞』があったこともわかる。小説の中で、同じ被差別部落出身だが自伝で日本中に有名になっていた猪子蓮太郎なる人物が選挙の遊説で来た飯山で刺客に殺されるシーンがあるが、その取材に来ているのが『信濃毎日新聞』の記者だ。

当時との違いはなんといっても交通事情。小説の中で出自を言うでないぞ、という戒めをなんども丑松に授けた牧童の父が上田の奥の牧場で亡くなり、丑松は帰郷するのだが、飯山から上田までの道程は興味深い。まだ鉄道は通じていなかった。

天長節の直後に父の死を知らせる電報が来たことになっている。明治の天長節は、今は文化の日の11月3日だ。北信では「小六月」という時期らしい。急遽上田の奥の村まで戻らねばならない丑松は飯山を出て千曲川沿いの北国街道を草鞋履きでひたすら歩く。どこまでか？豊野までだ。そこまでくると信越線の駅があり、直江津から来た汽車に乗り、長野を経て上田に着く。飯山から千曲川沿いに車を走らせるときには、歩いたらどのくらいかかるのだろう、と考えてみるのもいいかもしれない。早朝に発った丑松が豊野に着いたのは午後二時だ。今は飯山も新幹線が通っていることは、当時の誰も想像できなかったにちがいない。途中の描写は美しい。「千曲川の水は黄緑の色に濁って、声もなく流れて遠い海の方へ——その岸に蹲るような低い楊柳の枯れ枯れとなった光景。……飯山を離れて行けば行くほど次第に丑松は自由な天地へ出て来たような心地がした。北国街道の灰色な土を踏んで、花やかな日の光を浴びながら、時には岡に上がり、時には桑畑の間を歩み、時にはまた街道の両脇に並ぶ町々を通り過ぎて、汗も流れ、口も乾き、足袋も脚絆も塵埃に汚れて白くなった頃は、かえって少し蘇生の思いに帰ったのである。路傍の柿の樹は枝も撓むばかりに黄な珠を見せ、栗は穂を垂れ、豆は鞘に満ち、すでに刈り取った田畠には浅々と麦の萌え始めたところもあった。遠近に聞こえる農夫の歌、鳥の声——ああ、山家と言う「小六月」だ。その日は高社山一帯の山脈も面白く容を顕して、山と山の間の深い谷陰には、青々と炭焼きの煙の立ち上るのが見えた」。

今では栗の栽培はないだろう、また炭焼きの煙も見えないだろう。高社山の遠望に変わりはない。豊野から乗るのは、直江津方面から「盛んな黒煙を上げて」到着する蒸気機関車に引かれた列車だ。乗り込むとそこには偶然さっき名前の出た猪子蓮太郎、被差別部落

出身ながら東京で活躍、その著作のゆえに丑松が尊敬する彼が乗っていて、話が展開していくのだが、それはどうでもいいだろう。

次は、実家で葬儀その他を済ませた丑松は、彼についての嫌な噂が広まり出した飯山に戻っていくのだが、帰りは千曲川の船に乗る。豊野の蟹沢というところから飯山旅客便船の船が出ていた。蟹沢は、18号線が信州中野に向かう道と分岐するところだそう。そこにあるコンビニは「豊野＝蟹沢支店」だそう。

当時の飯山港

船にはもとよりエンジンなどはない。流れに乗ってくだるだけだ。千曲川の流れはあまりに強いので、上り便はない。上りは、100メートル近くの長いロープで二人一組、八人がかりで兩岸を引いて上がっていくので、客を乗せる余裕はない。丑松の徒歩旅行など問題にならない、まさに苦力（クーリー）の仕事だ。色々調べるとすでに江戸時代からあった舟運のようだ。



江戸時代は須坂まで船が来ていたが、汽車が通じたので、豊野の蟹沢止まりとなったとか。蟹沢には舟運についての、また、藤村を偲ぶ記念碑が立っているそうだが、行ったことはない。どなたか写真を撮られたら、是非このニューズレターに投稿いただきたい。

実は藤村は、『破戒』の構想を暖めながら明治37年、この蟹沢から舟に乗っているが、同行者が二人あった。自分の教える小諸義塾の、二人とも今で言えば女子高生だ（名前もわかっているようだ）。その二人とも蓮華寺のモデルになった真宗寺に一緒に泊まって、



飯山港の碑

彼は『破戒』を執筆した。自分が教える学校の女生徒と一緒に長期滞在。親もよく許したが、今ならセクハラで即免職だ。すでに明治学院の教員時代にもクラスの生徒と恋に陥っている。その後も小説『新生』にもあるが、藤村は、ちょっとここに書くわけにはいかない凄まじい女性遍歴がある。

ところが『破戒』の中には、蓮華寺の住職が女性に手が早く、奥さんが泣いてばかり。奥さんは下宿人の丑松に嘆く。「今日飯山あたりのお寺様で、女狂いをしないようなものはありやしません」。それどころか、養女にしたお志保さん——丑松を思い、丑松も思っているが、おたがいにそのことを知らない——お志保さんにもセクハラまがいのことをするので、彼女は実家に逃げ帰る話も出てくる。しかし、このあたりを読んだ飯山の人々は怒ったらしい。真宗寺の実際の住職はそんな人物でなかっただけに。藤村は飯山の読者からの抗議の手紙に答えて、「これはフィクションだ。フィクションは現実と違っていいのだ。そんなこともわからないのか」といったつれない返事を文芸雑誌に書いたようだが、彼のその後の行状を考えると「どの口が……」と言いたい人もいられるかもしれない。

余計なことを書いたが、藤村が女子学生たちと着いた飯山港にも記念碑があるらしい。お時間のある方は探してみたらどうだろう。ちなみにネットで検索すると蟹沢の記念碑はちょっと分かりにくいところにあるらしい。



【重機搭乗体験会】 高所作業車・除雪車に乗ってみよう👍





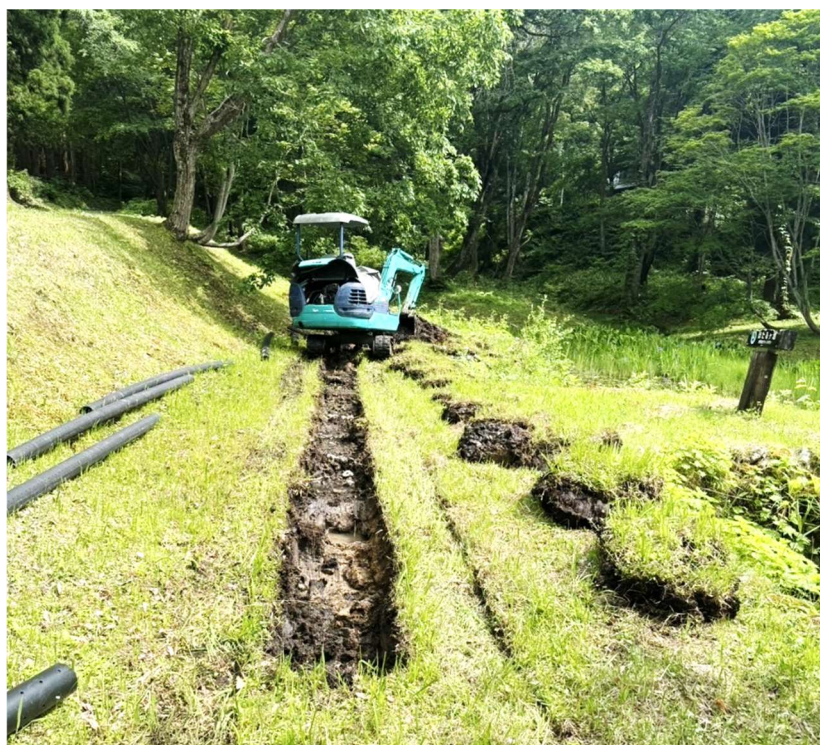
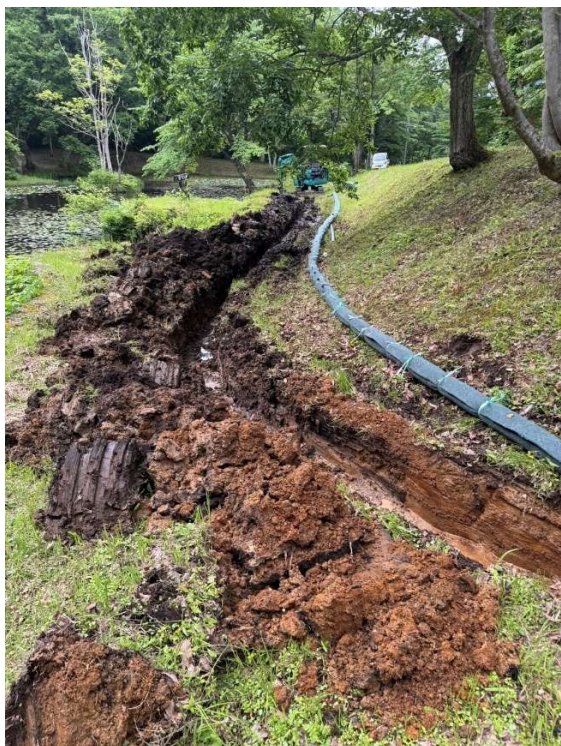
【ナウマンゾウ博物館講演会】

館長から直々、ナウマンゾウ・オオツノジカ・野尻湖人について興味深いお話を聞きました。



😊💪 頑張る職員 💪😊

ほたるヶ池のほとりを歩きやすくするため、ぬかるみを改善するパイプの埋設工事を行いました。



信濃町の防災マップ

◎信濃町のホームページからハザードマップ（避難所）を確認できます

◎この防災マップは管理事務所でも差し上げております。異常気象の昨今、ぜひご確認ください。さるようお願いいたします。

募集しています!! 野尻湖グリーントウン理事（組合・法人）

自薦・他薦を問いません。力を合わせてグリーントウンをより良く住みやすくしませんか！

通常の定例理事会は、週末に行います。神山ロッヂあるいはオンラインで会議に出席できますので、現役世代の方も自宅から参加できます。

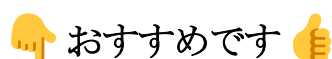
関心のある方は、ぜひ、野尻湖グリーントウン管理事務所までご連絡ください。

TEL 026-258-2221

★お知らせ

野尻湖グリーントウン通信をホームページでも、ご覧になれます。通信の

郵送が不要の方は管理事務所までご連絡ください。



おすすめです

本通信に連載の三島憲一様のエッセイと内藤壽夫様の情報コーナーがそれぞれ冊子になりました。

*「三島憲一 ♪ エッセイ集 ♪」

毎回ご好評の野尻にまつわる魅力的なエッセイです（掲載の写真がフルカラーでご覧になれます）

*「おすすめ! ▲ビュー・パワースポット 🌳 🌸 特集」

野尻をより深く満喫できる穴場が満載されています

ご希望の方には管理事務所にてお分けしております。

・エッセイ集：400円（実費のみ）・情報コーナー特集：100円（実費のみ）

郵送ご希望の方には、実費の他に切手代を申し受けます。

◎投稿欄「ほほじろの声」では、皆様の作品をお待ちしています。

- ・俳句・川柳（時事川柳・シルバー川柳・こども川柳など）・短歌・詩（大人・こどもの詩）・エッセイ・小説等
- ・写真・絵（水彩画・スケッチ・デッサン・水墨画・クレヨン画・パステル画・iPad画・色鉛筆画・油絵など）

宛先：・野尻湖グリーンタウン： ngt.454-66@royal.ocn.ne.jp
・FAX：026-258-2223
・住所：〒389-1303 長野県上水内郡信濃町野尻 454-66
・お問い合わせ TEL：026-258-2221

編集後記

野尻湖グリーンタウン管理組合の機関紙21号「秋のお便り」をお届け致します。

「グリーンタウン通信」は、定期的に発行の予定です。（次回は春号）

ご要望・ご意見は管理事務所までご連絡ください。TEL：026-258-2221

野尻湖グリーンタウン： ngt.454-66@royal.ocn.ne.jp

編集責任者 班目健樹 編集委員 阿部章子